

患者の負担を第一に考えた 低侵襲な脊椎手術を提供

JR桑園駅より徒歩5分と利便性の良い桑園整形外科は、患者が落ちて置いて過ごせるよう、自然な配色など、和める工夫を随所に取り入れた建物造りを行なっている。閉所恐怖症の患者にも対応できるオープン型のMRIや無菌状態に近いクリーンルームでの手術など最先端の設備が完備されているほか、駐車場は広いスペースが確保されている。

同院の本間信吾名譽院長は脊椎疾患を専門としており、腰痛や座骨神経痛等の治療を行なっている。治療では、保存療法を優先して行ない、神経ブロック療法やリハビリテーション、生活指導を実施。「Noblesse Oblige」（高い地位に伴う道徳的精

神的義務）

をモットーとし、患者の生活背景までみながら、一人ひとりに合わせた治療を提供している。



本間 信吾名譽院長

（ほんま しんご）北大医学部卒。市立札幌病院整形外科部長を経て、09年桑園整形外科副院長に就任。日本整形外科学会専門医・代議員。日本リウマチ登録医。日本整形外科学会脊椎・脊髄認定医。日本整形外科勤務医会常任幹事。札幌市整形外科医会副会長。札幌市医事紛争委員。医学博士。

けるだけ金属を使わない手術を心掛けています」（本間名譽院長）
金属をなるべく使わないこととで、低侵襲な手術を実施、術後の経過観察も長期間にわたる等、フオーロー体制も充実。30年にわたり培ってきた経験と技術を活かし、出来る限り患者の要望を聞き入れた診療を提供している。

小さな傷口で行う全国屈指の 人工関節置換術を実施

同院の東裕隆院長は、関節リウマチ及び変形性膝関節症の患者に対して、小皮切（小さな傷口）による人工関節置換術を実施。全国屈指の実績を誇る。

従来人工膝関節を挿入する場合、膝の皿を中心に20〜30cm切開し、ふとももの筋肉を切る必要があったが、小皮切では、筋肉のない膝の皿の横から切開し、特殊な器具と技術で、傷口も5〜9cmと非常に小さな傷で手術を行なう事が出来る。

傷口が小さいため、患者の精神的ストレスが軽減され、術後の傷跡も目立たない。また、筋肉を切らないため、通常は1ヵ月以上の入院が必要となるがリハビリによる回復も早



▲小皮切の傷口(6cm)

く2〜3週間で退院する事が出来る。東院長は国内で最も早く小皮切による手術を開始した。同手術は、医師の熟練した技術が必要なるほか、手術機器の改良も必要となるが、東院長は、独自の手術機器の開発も行なっており、まさに小皮切手術の草分け的存在。さらに同院は、小皮切手術の研修施設に認定されており、全国各地から同手術を学びに医師が訪れている。このほか、前十字靭帯や外反母趾の治療にも尽力、どちらも道内有数の実績を誇る。
「患者さんにあたたかさを感じていただけるよう、職員一丸となって治療にあたっています」と東院長。



東 裕隆院長・理事長

（あずま ひろたか）北大医学部卒。市立札幌病院整形外科副院長を経て、07年桑園整形外科開院。日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄病医・スポーツ医・リウマチ医。日本体育協会認定スポーツ医。日本運動器リハビリテーション認定医。全日本スキー連盟スポーツ医科学委員。身体障害者認定医。医学博士。

桑園整形外科

■札幌市中央区北8条西16丁目28-30
☎(011) 633-3636
http://www.dr-azuma.net/
■診療科目 / 整形外科、麻酔科、リハビリテーション科、リウマチ科
■診療時間 / 月〜金 9:00〜12:00
14:00〜18:00
土 9:00〜12:00
■休診日 / 日曜・祝日